

# Pitchari ~ピチャリ~

七飯町歴史館だより  
第137号

## ななえ古写真物語 VOL. 137

### 雁橋を追う

VIEW OF KARIGANEBASHI

昭和初期か？  
大沼国定公園



(行發店商井永) VIEW OF KARIGANEBASHI 橋 雁 「八十五其」(園公沼大道海北)

現在、大沼国定公園の島々を散策できるように、架けられた橋は、およそ27梁あることになっている。中には、既になくなった橋もあるかもしれないので、「およそ」という曖昧な表現を使わせてもらっている。

そもそも、大沼には100以上の島々があるといわれ、これらは1640年の駒ヶ岳大噴火により、山体の一部が泥流となって流れる「流山地形」によって出来ていると考えられる。後、明治36年に鉄道が敷設され、大沼が風光明媚な場所として知られるようになり、本格的に公園整備が進められるようになった。その立役者となったのが、「日本の公園の父」と称される林学博士の本多静六である。本多は大正3年に、大沼公園の運営をまかされた函館支庁の委嘱によって、大沼に約1週間滞在し、当時七飯村長だった木村広凱をはじめ、池田醇、宇喜多秀夫、宮川勇、永井恒孝、堀口亀吉、相馬富治といった大沼の有力者たちの案内で、現地調査を行い「大沼公園改良案」を北海道議会へ提出。翌年から本格的に公園整備が進められた。

改良案の中には、道路や橋梁を整備することも盛り込まれ、既にある橋のほか、島々を繋ぐ橋が架けられ、散策路の整備が行われた。

さて、問題は上の写真である。これは古い絵葉書で、橋梁整備のことを勸案すれば、大正4年～昭和初期くらいではないかと考える。ところが、タイトルにもなっている「雁橋」と同名の橋が現在見当たらない。構図から考えると、最も手前に横断する鉄路、次に湖面、そして雁橋、橋の上に立つ人のさらに向こう岸に見える施設は、容姿から「百花園」という旅館と考えられる。これらのことから、この湖は現在の「小沼」で間違いはない。が、確か現在小沼には「雁橋」という名の橋はないはずである。

かつて、ピチャリ第92号で小沼にあった「紅葉橋」の話に掲載したが、紹介した「紅葉橋」が実は小沼ではなく、大沼にあった「紅葉館」という旅館の前にあった橋だと、誌面を読んだ方から、情報提供があった。そのため、同名だからといって同じ場所とは限らない。そこで、再度構図を確認し、島々と橋の位置、対岸にある百花園があった場所を想定して、直線で結んでみたら、「雁橋」は、現在でいう「紅葉橋」の可能性が高いことがわかった。

なんとも、奇妙な感覚に陥ったが、前掲した「紅葉橋」とこの「雁橋」の関係について、どうやら、深く調べる必要がありそうだ。

**23日** 北斗市沖川小学校5・6年生が来館しました。例年歴史館を訪れてくれるのですが、挨拶もきちんとでき、疑問点を自分の言葉でしっかりと質問できる印象的な学校です。常設展示室の石器や土器を、教科書とは違った切り口で解説をします。次々に質問する子どもたちにその場で回答をし、その後は実際に土器や石器に触れてもらいました。手に伝わる温度や質感、日常で使う道具との違いをどう感じたでしょうか。博物館という場所を初めて訪れたという子が「楽しい！また来たい！」と元気に言ってくれました。何よりの一言です。

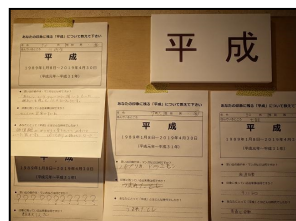
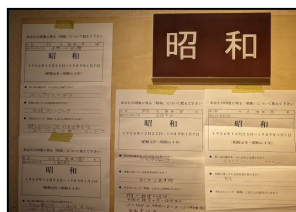


**27日** 今年度ジュニア探検クラブが始まりました。町内の小学校5・6年生から募集をし、19名の子どもたちと1年間活動をします。第1回目は、オリエンテーションと館内外の見学。自己紹介や活動内容の説明の後には、名札を作りました。館内の見学は普段は入れない収蔵庫の中へ。動物の剥製や、棚にびっしりと並ぶ資料を見て驚く子どもたち。たくさんの「はじめて」を怪我なく、楽しく1年間を過ごしたいと思います。



## 「昭和と平成」

開催中の企画展「昭和と平成」。出入口近くに設置している小さなコーナーに、観覧者の「昭和」と「平成」の思い出を記入して頂いています。印象に残った出来事や思い出の曲や本、自身にとってのそれぞれの時代の感想など、実に様々。神奈川県からお越しになった方が、あなたにとって平成とは？の質問に「価値観がガラガラと音をたてて変わっていった。何でもありの時代になった」と書かれていたのが、印象的でした。



### 編集後記 ~tawagoto~

この間、当館のリンゴ見本園の摘花を行った。作業をしていると、花に集まるハチやアブが、羽音を響かせ近づいてくるのがわかる。目を凝らすと葉や枝、樹木を音もなく動きまわる虫もいる。テントウムシ、アリ、アブラムシ、クモ、ハムシ、ゾウムシなどである。一本のリンゴの木を舞台に、目に見えただけでも、こんなにも多様な昆虫が生きているのだなと、感心しながら花を摘む私の、摘花の技術は、いまだ花開かないままである。(やまだひさ

## 6月の予定

|    |                |
|----|----------------|
| 1  | 土              |
| 2  | 日              |
| 3  | 月              |
| 4  | 火              |
| 5  | 水 夜の博物館        |
| 6  | 木              |
| 7  | 金              |
| 8  | 土              |
| 9  | 日              |
| 10 | 月              |
| 11 | 火              |
| 12 | 水              |
| 13 | 木              |
| 14 | 金              |
| 15 | 土              |
| 16 | 日              |
| 17 | 月              |
| 18 | 火              |
| 19 | 水              |
| 20 | 木 ピチャリ138号発行予定 |
| 21 | 金              |
| 22 | 土 ジュニア探検クラブ    |
| 23 | 日              |
| 24 | 月              |
| 25 | 火              |
| 26 | 水              |
| 27 | 木              |
| 28 | 金              |
| 29 | 土              |
| 30 | 日              |

6月の休館日はありません。

### ホップ栽培

玄関脇で育て始めた「ホップ」。冷涼な気候で良く育ち、薄緑色の繊細な実が晩夏には風に揺れる予定です。



~ピチャリ~  
**Pichari** 第137号

令和元年5月20日発行  
 七飯町歴史館

〒041-1193 亀田郡七飯町本町6丁目1-3  
 電話 0138-66-2181 FAX 0138-66-2182  
 E-mail : rekishikan@town.nanae.hokkaido.jp